

幕末の千住



大総督府参謀高札(郷土博物館蔵)
上野戦争の直後混乱を収束させる目的で出された高札。

幕末の動乱の最中、交通の要衝であった江戸四宿は、幕府の警備拠点とされました。文久3(1863)年、千住宿にも関所が設けられ、出羽松山藩の大名酒井忠良が警衛にあたりました。この時期、千住宿では農作物の出荷や肥料の輸送が制限され、大いに混乱しました。やがて戊辰戦争(1868年)が始まると、幕府脱走兵たちによる略奪が起こり、千住宿でも被害が相次ぎました。官軍の江戸包囲網が形成されるなか、彰義隊による千住宿の偵察も行われました。また千住宿は、当時、五兵衛新田(現、綾瀬四丁目)に屯所を置いた新選組への物資補給の役割も担っています。

やがて江戸城が無血開城すると、千住宿にも官軍が駐留し、江戸から脱走した抗戦派たちとの戦闘の拠点となりました。



▲久左衛門新田願書(元治年)郷土博物館蔵
「千住宿新御開所」が設置されていたこと分かる。



◀橋本貞秀「日光御街道千住宿日本無類橋樑杭之風景本願寺化粧之図」(慶応元年、郷土博物館蔵)

慶応年間の千住の様子を描かれている。